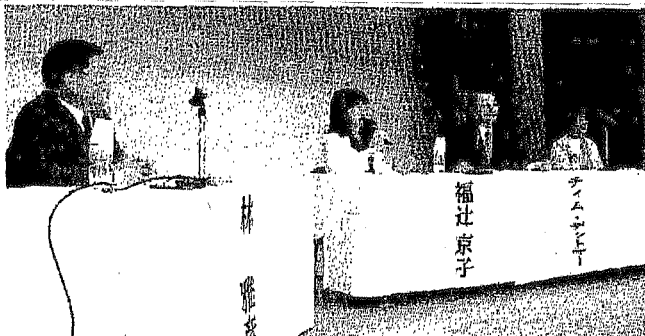


新宮市

# 言葉よりのハートが大切

## 外国人向け観光ガイド育成シンポジウム

観光活性化に貢献できる人材の育成を目的とした「外国人向け観光ガイド」の育成プロジェクトであった。林雅彦が「世界遺産・熊野の魅力を伝える」をテーマに、はじめに主催者を代表して佐藤隆陽市長が「熊野が世界遺産である」と述べた。熊野を愛するかの一点に求められるのは自らの利益にとらわれることなく、いかにふるさとをアピールできるかがポイントである。熊野浩・明治



熊野の魅力について語る左から林雅彦明治大学教授、福辻京子さん、ティム・デットマーさん、江崎美智子さん  
=18日、新宮地域職業訓練センター



開設シンポジウムに出席した聴講者たち

大学経営学部教授が「地域の活性化が国の活性化に結びつくもの」と思っています。明治大学が少しでもそのお役に立てれば」とあいさつ。

続いて林雅彦教授をコーディネーターに、新宮市観光ガイドの会前会長の福辻京子さん、英会話教室主宰のティム・デットマーさん、熊野・那智ガイドの会理事の江崎美智子さんが熊野の魅力を語った。福辻さんは外国人を案内する中で「神社はなぜ赤い色？」など、日本人が考えてもいない質問が時々あることなどを紹介。観光客は熊野に勉強に来ているわけではなく、癒やされに来ているとし、「外国語が分からなくても心の会話ができれば」と訴えた。

デットマーさんは外国人に熊野を説明するガイドブックや案内板は、人名、地名ばかり入っていて分かりにくいと指摘。「データばかりではなく、ストーリーになれば歴史がもっと身近になる。あまり学問的になりすぎず、楽しく伝えたい」と述べた。「英語は難しい」と

と外国人を避けてしまふのが一番いけない。熊野に勉強に来ているわけではなく、癒やされに来ているとし、「外国語が分からなくても心の会話ができれば」と訴えた。

江崎さんは観光ガイドの一番の魅力は「出会いと発見」と力説。こちらが説明するだけでなく、逆に熊野の魅力を教えてもらうことも多いと述べ、観光客に対しては「笑顔とハートが大切」と訴えた。